

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題	東京工業大学附属図書館におけるコロナ禍への対応 郵送による資料貸出サービスを中心に
著者	小宮山史
出典	専門図書館, Vol. 301-302, p. 76-79
発行日	2020, 10

東京工業大学附属図書館におけるコロナ禍への対応 郵送による資料貸出サービスを中心に

小 宮 山 史 (東京工業大学研究推進部情報図書館課)

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、東京工業大学附属図書館(以下「当館」)でも、従来のサービスを継続することが難しくなった。

本稿では、当館におけるコロナ禍への対応について、新規に始めた「郵送による資料貸出サービス」を中心に紹介する。

2. 東京工業大学における新型コロナウイルス感染症拡大への対応

2.1 大学の対応

東京工業大学(以下「本学」)は、学生約11,000名、教職員約4,000名が所属し、東京都と神奈川県にキャンパスを有する。本学では、新型コロナウイルス感染症への大学としての対策を総合的に推進すべく、2020年1月29日に新型コロナウイルス警戒本部、4月1日には警戒本部を強化して感染症対策本部を設置した。本部等からの情報は、公式Webサイト上の特設ページ¹⁾から発信している。3月30日には学長からのメッセージが発信され、大学の研究・学修活動を維持し、また構成員や周囲の健康を守ることを定めた基本方針と、具体的な対策を定めた4段階の対応方針が示された。

この方針に従い、2019年度卒業式の縮小、2020年度入学式の中止等の決定が下され、第1、第2クォーター(5月4日～8月8日)の講義は、Web会議ツールZoomによりオンラインで遠隔実施することとなった。

4月7日には、東京都と神奈川県に緊急事態宣言が発出され、本学の対応方針レベル3の適用により、本学は入構禁止、教職員は原則在宅勤務することが決定した。

その後、対応方針レベルは細分化され、緊急事態宣言解除後の6月1日からは2.5+、6月22日からは2.5-へと移行、現在(8月20日時点)では2+

レベルとなり、一部対面授業が再開し、学生が受講のため来学するようになっている。

2.2 図書館の対応

本学は大岡山本館、すずかけ台分館の2つの図書館を有し、本館は35名、分館は7名の職員で運営している。コロナ禍の影響下にあつて、当館では、本学の対応方針レベルに則ってサービスを提供している。

3月5日から学外者の入館を不可とし、4月1日に学習スペースとしている2、3階の使用を全面的に中止とした。本学の対応方針レベル3適用時には、サービスの継続が困難となり、4月8日から臨時閉館とした。

閉館中は外部対応窓口をメールに一本化し、シフト制(出勤1～2名、その他在宅)勤務に移行した。なお、在宅勤務に際し、自宅に十分な環境がない職員へは大学所有PCの貸与といった補助があった。

出勤勤務と在宅勤務双方での情報共有のため、課長からの日々の定例報告、出勤勤務者による日報作成、ZoomやSlackを活用したオンラインでの打合せを行うようになった。

3. 郵送による資料貸出サービス

3.1 検討経緯

来学ができず、在宅での研究・学修活動を余儀なくされる学生に対して当館ができる支援を模索する中、他大学にて実施され始めた郵送による所蔵資料の貸出サービス(以下「郵送貸出サービス」)が話題に上がった。同時期に「図書館休館対策プロジェクト」²⁾という、図書館の休館等で研究活動に支障をきたした若手研究者による活動が始まる等、研究・学修活動における図書館の必要性を再認識したこともあり、当館でも郵送貸出サービス

を実施すべく検討することとした。

検討は利用者サービスの担当グループにて4月15日に開始し、制度設計やサービス実施にあたり必要となる予算の概算(100万円程度)を行った。20日に課内、23日には担当理事、館長、他関係部署へ報告したところ、館長より即日了承され、問題には発生都度対応することとし、ひとまずサービスを開始した。

分館は建物の改修工事期間にあたるため、サービスは本館のみ実施することとした。本学の対応方針レベル3の状況下で消耗品購入や郵送の手配が可能か等担当部署への確認を行い、5月初旬にかけて前述の本学対策本部や、広報、学生対応を担当する部署へ郵送貸出サービス実施予定の報告を行った。予算は図書館の通常経費を切り詰めて捻出し、実務は担当グループより2名が追加で出勤勤務することとし、5月7日から、郵送貸出サービスを開始した。

3.2 サービスの条件・業務手順

開始当初、郵送貸出サービスは以下の条件で実施した。来学禁止処置に伴い、郵送による資料返却を認め、第2クォーターが始まる6月に学生が来学可能となる想定で受付期間等を定めた。

表1 郵送貸出サービスの当初条件

受付期間	2020年5月7日～6月17日
対 象 者	本学に所属する学士課程学生・大学院生・科目等履修生・留学生・研究生、海外交流学生等
対象資料	大岡山本館所蔵かつ「貸出可」の資料
冊 数	合計3冊まで
返却期限	2020年7月2日
発 送	図書館より郵送(費用は当館負担)
返 却	来学が可能になった後に返却(郵送返却の場合、費用は利用者負担)
申込方法	メール

その後、本学の学士課程1年生より、2度にわたる図書館のサービス拡大の要望があった。この意見は学長や理事にも届き、理事から学生の学修活動を円滑に支援できるよう条件を見直せないか

との打診があり、すぐに検討を行い、貸出冊数増等の処置を取った。現在は本学の対応方針レベルが1に下がるまで、常時6冊までの貸出ができるようになっている。

郵送貸出サービスの業務マニュアルは、出勤・在宅勤務時どちらでも確認できるよう、Web上で利用でき共同編集可能なGoogleドキュメントにまとめ、随時改訂することとした。また、当初は引継ぎの不備が発生したため、伝達方法を検討し、作業記録も同条件のGoogleスプレッドシートに記述することとした。これにより、担当者間のみならず課内でサービス実施状況が共有しやすくなり、また実績値から今後の業務量等を予測しやすくなった。

なお、業務手順は以下のとおりである。

- 1.利用者からの申込メールを受理し、利用資格と希望資料の郵送可否を確認する。
- 2.貸出可能な資料を用意し、利用者(発送)単位でサイズを量り、発送方法を決定する。
- 3.資料、返却期限等を記載した送付状をビニール袋で保護し、梱包する。
- 4.資料を発送し、利用者へ発送完了メールを送付する。

3.3 サービスの実施

広報として、5月7日に当館Webサイトへお知らせページ³⁾を掲出、図書館の公式Twitter⁴⁾及びFacebook⁵⁾にて紹介し、前述した本学Webサイトの特設ページへも案内が追加された。また、館長より学内会議で本サービスの報告がなされ、学長や部局長へも情報共有が進められた。

結果、初日の申請件数は60件、翌8日は52件となり、自宅でオンライン授業を受けている学生の図書館資料へのニーズが高いことがうかがわれた。その後は徐々に件数が落ち着き、現在は日に10件弱と、職員2、3名により翌平日中2時間程で処理できるようになっている。また、郵送費等の費用は、現在までに80万円程度かかっている。

2017年度から2019年度に比べると、貸出冊数は1割弱程度で、本サービスのみでは従来の需要を

満たすには至っていないことが分かる。

利用状況としては、1度に複数冊の申し込みをする利用者が比較的多くみられた。授業の課題図書等、学生の貸出希望が集中する資料もあり、申請の早い順に貸出を行った結果、後の申請者へ貸出が行えないケースが時折生じた。特に貸出が多かった資料は、化学系の複数の授業で教科書、参考書に挙げられる『アトキンス物理化学』、教養科目の参考書『ファスト&スロー』だった。

サービス開始直後は、申し込みから発送までに数日を要したため、担当グループ外の職員にも出勤勤務してもらい、1日2～4名、3時間ずつ発送等の業務にあたってもらった。結果、2週間程度で、申請の翌平日には資料を発送できる体制を整えることができた。

この他生じたトラブルとして、発送した資料が図書館へ返送されることが何度あった。受取人の長期不在や住所不備によるもので、利用者へ確認の連絡を入れ、再送することとなった。

表2 月別の貸出冊数(8月は20日時点)

	5月	6月	7月	8月	合計
2017-2019 年度平均	10,256	9,095	9,787	4,411	33,549
郵送貸出 サービス ()は 申込件数	1,049 (627)	496 (266)	443 (217)	125 (69)	2,113 (1,179)
対平均比	10.2%	5.5%	4.5%	2.8%	6.3%

表3 身分別の貸出冊数(8月は20日時点)

身 分	2017-2019年度平均	郵送貸出サービス
学士()は1年	20,918(4,231)	1,276(411)
修 士	9,842	691
博 士	2,057	112
その他	732	34

4 その他の取り組み

4.1 電子資料の拡大

本学では、従来電子資料がよく利用されており、コロナ禍の影響下でさらに利用量が増加した。

電子ジャーナルのSpringer Nature等主要なコ

レクションの一部では、3～7月の利用実績が前年より5～20%程増加した。

電子ブックでは、これまでは提供条件が当館の要望にそぐわない等の事情で和書をあまり揃えられていなかったが、今回、授業関連図書の電子ブックを購入したり、和書の電子ブックの試読サービスを導入したりする等電子資料コレクションの一層の充実をはかった。結果、例えばMaruzen eBook Libraryの3～7月の利用実績は2019年の385件に対し936件と2.5倍近く増加した。

また、コロナ禍にあたり各ベンダーによる一時的なサービス拡大措置が取られており、本学で契約しているもの等を取りまとめたページ⁶⁾を作成した。こうした電子資料の在宅での利用を支援すべく、利用案内のページ⁷⁾も新設した。

4.2 開館再開にあたっての感染症対応

本学保健管理センターの医師に閉館中の図書館を視察してもらい、5月15日には、当館や学務部の職員向けに感染対策に関する講義を実施し、対面、Zoomによるオンラインでの受講合わせて65名が参加した。

6月22日の開館再開にあたり、カウンターへアクリルパネルを設置、入館ゲートの目の前に大判の手洗い励行ポスターを掲示、職員の通常業務として日に2度の館内設備消毒を追加した。対策後に再度医師の視察を受け、館内各洗面所へ石鹸と消毒液の設置等の追加処置を行った。その後も、図書館入口に自動検温装置を設置したり、利用者が使えるよう消毒液のスプレー等を用意したりして、感染防止に努めている。

4.3 オンラインでの授業・講習会

本学の授業がオンラインとなったため、当館にて担当する授業や講習会もオンラインで実施した。

授業では図書館の利用方法や文献探索の基礎を講義するが、受講者の様子が見えずサポートが難しいことを鑑み、資料の作りや実習への時間配分を工夫し、また受講者の集中力が続く時間を考え、講義途中に図書館内映像のライブ配信を行った。

講習会は、通常実習形式のところを講義形式に変更する等内容を調整して4件開催した。2019年度と比べ、申込件数が平均2.8倍、参加者数が2.1倍と増加傾向にあった。授業でオンライン講義に慣れていたこと、時間や場所の制約が少ないため参加しやすかったことが要因と考えられる。

4.4 電子版見学ツアー

当館では例年春に新入生向けのライブラリーツアーを実施しており、また本館は学外からの見学者が年に3,000人ほど訪れる。現在は対面での応対ができないため、オンラインコンテンツとして作成する企画が進行している。

これは学生との協働で実施しており、学生たちがアイデアを出しながら電子版見学ツアーを形作るプロジェクトが進行している。現在既に試作も上がっており、公開が待たれる。

5. おわりに

郵送貸出サービスを中心に、本学でのコロナ禍における取り組みを紹介した。特にオンラインで利用できるサービスは、図書館Webサイト上に「在宅で利用できる図書館のサービス」として特設ページ⁸⁾を作成している。

本学では、後期授業も対面式と並行してオンライン講義を行う等、ニューノーマルへの模索が続いている。新しいステージへ向かう学生や研究者と共に、図書館員も従来の枠組みを脱する試みを重ねてゆきたい。

(こみやま ふみ)

参考文献

- 1) 東京工業大学. “新型コロナウイルス：学長メッセージ・本学の方針、みなさまへ重要なお知らせ(7/28更新)”. <https://www.titech.ac.jp/news/2020/046433.html>, (参照2020-08-12).
- 2) 図書館休館対策プロジェクト. 図書館休館対策プロジェクト. <https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website>, (参照 2020-08-18).
- 3) 東京工業大学附属図書館. “【学内の方へ】 郵送による資料貸出サービスの実施について”. <https://www.libra.titech.ac.jp/info/news/20200507>, (参照2020-08-12).
- 4) 東京工業大学附属図書館. 東京工業大学附属図書館公式Twitter. <https://twitter.com/TokyoTechLib/>, (参照2020-08-12).
- 5) 東京工業大学附属図書館. 東京工業大学附属図書館公式Facebook. <https://www.facebook.com/tokyotech.lib/>, (参照2020-08-12).
- 6) 東京工業大学附属図書館. “新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により利用可能な電子資料”. https://www.libra.titech.ac.jp/e-resources_coronavirus, (参照2020-08-12).
- 7) 東京工業大学附属図書館. “在宅での電子資料の利用方法”. https://www.libra.titech.ac.jp/e-resources_temporary, (参照2020-08-12).
- 8) 東京工業大学附属図書館. “在宅で利用できるサービス”. <https://www.libra.titech.ac.jp/remote>, (参照2020-08-12).

東京工業大学附属図書館におけるコロナ禍への対応

郵送による資料貸出サービスを中心に

小宮山 史(東京工業大学研究推進部情報図書館課)

東京工業大学附属図書館では、新型コロナウイルス感染症の影響下にあって、大学の対応方針に添いながらいかに学生や研究者の研究・学修活動を支援できるかを考え、新規サービスの導入や、従来提供してきた電子資料の拡充等に努めてきた。本稿では、新規サービスである郵送による資料の貸出サービスを中心に、その取り組みを紹介する。